

特別賞の顔

＜上＞

初出品した県展でいきなり第1席に輝いた。「どんなすごい賞なのか、まだよく分かってません…」と照れ笑い。快

さ1・8歳の真つ赤な作品は、審査会場でひととき目を引いた。複雑なねじれは断熱材を削って作

に秘めた負けん気と根拠にも通いつつ、毎日2時間は彫刻の制作に打ち込む。休日には朝8時から夜8時まで美術室にこもって作品を仕上げた。きたら、また出品してみたい」。(廣井和也)

彫刻

大西 彩音さん(18)

徳島市末広2



高校の3年間で表現

徳島市立高の美術部長。幼い頃から絵を描くのが好きで、城東中時代から美術部に所属して活動してきた。しかし、美術展やコンクールに応募した経験はほとんどなく、賞とも無縁だった。「自分が納得するものができるまで、作品を出品することはできない」という信念からだった。

控えめな物腰で、優しい口調。しかしながら「内に秘めた負けん気と根拠にも通いつつ、毎日2時間は彫刻の制作に打ち込む。休日には朝8時から夜8時まで美術室にこもって作品を仕上げた。きたら、また出品してみたい」。(廣井和也)



大西彩音さんの受賞作「時の流れ」

文化